

Clinical Academic Topics

1. 矢追インパクト療法(Y.I.T.)による新型コロナウイルス感染症の予防の可能性

Possibility of preventive effects to COVID-19 with Y.I.T.

2. 矢追インパクト療法(Y.I.T.)による糖尿病治療

Treatment of D.M. with Y.I.T.

山脇診療所
Yamawaki Clinic

やまわき たかし
山脇 昂
Takashi Yamawaki

1. 矢追インパクト療法 (Y.I.T.) による 新型コロナウイルス感染症の予防の可能性

何方も未だ述べられていない事を書きます。免疫とは、例えば大きな達磨ストーブが良く燃焼していて、煙突からは薄い白煙を少量出し周囲に暖かをもたらししている状態が最も良い状態であり、そのような状態にあれば、ヤカンで冷たい水を上からかけても火は消えず、水を跳ね返します。

人間では問題なく健康に生活している時の状態で、色々な感染症に罹患しないで跳ね返す状態だと思います。そのストーブが中で不完全燃焼を起こしていると、その煙突からは黒い煤の多い煙をモクモクと上げていて、周囲にも悪い影響を与えますし、上から冷たい水をかければ、消えてしまいます。体では色々な感染症に罹患してしまった状態です。

これらの事がウイルス感染症に関わっていると思います。こう言う例え方は聞いたことがありません。誰も発想できないのでしょうか？矢追インパクト療法 (Y.I.T.) は皮内注射療法ですが、注射している途中から循環が良くなり、温かさを感じるようになり、注射直後には実測で0～1℃体温を上昇させます。達磨ストーブでいうと不完全燃焼を起こしている時（病気では糖尿病・高血圧・肺疾患等老

化も）、新たな火種を入れてやり、ストーブ内を掻き回してやる。するとストーブはゴート音を立ててよく燃え出す。よく経験することです。

体も良く燃焼していれば感染症、特に今危険に曝されている新型コロナウイルス感染症に幾ばくかの予防的効果を発揮すると思います。小児や若い人が感染しにくいのは、代謝が活発で良く燃焼していて、生命維持に必要な最小限のエネルギーしか消費していない安静状態にあるときの体温つまり基礎体温が高いためであろうと思います。

Y.I.T. は「自然免疫」を刺激する。「訓練免疫 (trained immunity)」という新たな概念、つまり、自然免疫が働きやすくなるように「訓練された」状態になる。つまり、「訓練免疫」は「自然免疫」がパワーアップした状態と考える。オランダでは BCG 接種により、未知の病原体に対する抵抗力が高まる可能性があると言われるが。それよりもっと可能性がある。

感染してしまった患者さんへの効果は全く不明です。又感染し治癒した後、再度ウイルスが発見される人がいるというのは基礎体温が低いためではないでしょうか。

Y.I.T. は皮内注射ですから患者さんと接触しないといけませんから現状では治療は不可能です。一般的に他の疾患での薄くなった嗅覚

の回復にはこの療法は効果的です。味覚回復にはまだ不明です。回復後の呼吸困難・倦怠感等の後遺症には素晴らしい効果を発揮します。

【方法と解説】

矢追インパクト療法 (Y.I.T.) とは、現に使用できる数種アレルゲンエキスを、アレルゲン希釈液 (鳥居) を用いて、濃くするのではなく、反対に 10 億倍～1 兆倍等に超微希釈し、皮膚浅層 (皮内) に 0.01～0.05ml 注射を数個～数十個のクワデルを作るだけの簡単な療法です。主にアトピー性皮膚炎・アレルギー性鼻炎・喘息等に使用して来ました。

現に行われている減感作療法の効力の薄さ、危険性に鑑み、盛岡の故矢追博美先生が減感作療法として開発しました。疼痛性関節疾患・姿勢の矯正・糖尿病・高中性脂肪血症・色々な目の疾患・肺疾患等に効き、寝たきりの患者さんを起こすことが出来ることを私 (山脇昂) は体験しています。この療法は糖尿病にも利用できます。以下に続けます。

2. 矢追インパクト療法 (Y.I.T.) による糖尿病治療

矢追インパクト療法は糖尿病に運動代替療法として作用します。筋肉中の脂肪酸の燃焼を助長し、体が温かくなります。糖尿病患者さんにインシュリン注射をし、糖を燃焼させ血糖を下げますが、これでは体は今現在より体が温かくなりませんし、基礎体温も上がりません。

矢追インパクト療法は基礎体温を 0～1℃ 以下上昇させます。糖尿病は急速に老化することを意味しますが、インシュリンはこの急速な老化を、緩慢なスピードにすることは可能でしょうが、それ以上ではありません。矢追インパクト療法は筋肉中の脂肪酸を燃焼させる刺激となりますから、アデポネクチンが作用し AMP キナーゼが働き (一方 GLT4 は刺激しません)、ATP が産生され、燃焼が良くなり、代謝が盛んになり、筋収縮力強化し、体が温かくなり、諸関節の可動性が良くなり、リフレッシュします。体が温かくなることはサーモグラフィーを

使用するとすぐ証明できます。

私は BMI 30 以上の糖尿病の人 3 名 (男性 1 名女性 2 名) を血中中性脂肪と HbA1c を数ヶ月追ひ、次第に下降して来るのを、わがホームページに載せました。[山脇診療所](#) ← 検索してみてください。

この人達はいずれも体力が回復し、皮膚もきめ細かになっています。1 回やると一風呂浴びた様だと表現する人も居ました。減感作療法をやられている Dr. 側も患者さん側もアレルギーの事ばかりに気を取られて、このことに気付いていないのです。

アレルギー反応が起こるにしても、その反応を治癒に導くにしても体が温かくなるとだめなのです。アレルギー反応を抑えるのに NSAIDs やステロイドホルモンを使用しますが、これらは体を冷やして反応を抑えるので、体には良くないと安保徹先生は強調されています。

それに比し矢追インパクト療法は体を温めて治しますから、本来のごく自然な治し方なのです。Antiageing とか wellageing 等頻繁に言われて、色々な治療法が試みられています。皮内刺激による神経軸索反射を利用する antidromic (逆走) 刺激が体温を上げるのに最も効果的だと思います。

日常口に入れるカプサイシン・芥子・ワサビ等香辛料もこの反応を利用しています。例として或る達磨ストーブを考えて見ましょう。その中に湿った石炭の塊がたくさん入っていて、その上に木っ端とか新聞紙を丸めたものとか入っていて、マッチで火をつけたとしましょう。不完全燃焼で窓の外の煙突から黒煙がモクモクと上がっている。公害の垂れ流し状態といえます。ストーブは全然温かくない。ストーブとしての使命は果たしていない。この状態が人間では糖尿病状態と言えます。そこに新たな火種を入れ、かき回してやる。するとストーブはゴーと音を立てて燃え上がる。ストーブは温かくなり、本来の働きをし、煙突からの公害の撒き散らしもなくなる。煙突の中に溜まった煤も消えます。これは人間の動脈硬化が改善されるのに譬えられます。この新たな火種が矢追インパクト療法なのです。

◆ Clinical Academic Topics ◆

一方不完全燃焼中のストーブに、上からヤカンで水を掛け冷やしてしまう。このことがNSAIDsやステロイドホルモンのやる役割です。だからこれらを可能な限り使用しないか、なるべく短期間の使用にしてくださいと安部徹先生が述べておられます。

人間に不利益反射と考えられている神経軸索反射を利用し、熱を産生し、基礎体温を上げる利益反射に変えるのです。アナフィラキシーショックや声門浮腫は急激に燃焼させすぎると起こる不利益反射です。

矢追インパクト療法は数種アレルゲンを希釈液（鳥居）を用いて10億倍～1兆倍に超微希釈し、0.01～0.05cc皮内注射する療法です。皮内注射は数個～数十個やります。超微希釈してありますからアナフィラキシーショックや声門浮腫は起こりません。体は温かくなり、他から見て血色が良くなり、気分が良くなったと本人は言います。

ここから派生する色々な疾患に対処できます。人間の骨格は関節群で出来上がっていますから、関節の稼動域が広がるということは肩関節の痛みや変形性股関節症や膝関節症にも効果的です。腰部脊柱管狭窄症等の腰痛にも良く効きます。

亀を脅かした時首を引っ込めて目だけきょろきょろさせていますが、亀には首の収納施設ありますが、人間にはありません。人間の肩こり、猫背は色々なストレスで首における諸関節が縮んでロックし、筋肉が凝り固まった状態で収納施設がないからこういう形になります。稀に伸び切ったままロックしている時もありますが、このロック状態を開放してやると、肩こり・猫背から開放され、首が自由に動くようになります。すると身長が変わりますので、前後の写真と身長を測ります。長期間縮んだ状態ではそのまま固まってしまう。

猫背を治すことはうつ病の治療にも繋がりますし、お年寄りの骨粗鬆症から来る円背や亀背や側弯症の矯正にも骨の側からではなく背中を支える筋肉や腱滑膜軟骨等の軟部組織からのアプローチです。（整形外科的骨中心の考え方ではありません）関節リュウマチにも最適です。腫脹・疼痛・発赤は次第に緩解してきます。胸

郭も関節群から成り立っていますから、酷い咳発作とか胸部打撲肋骨骨折時狭心症時の呼吸困難はこれら関節群がロックし、浅い呼吸しか出来なくなることです。

矢追インパクト療法を胸壁皮膚に数箇所～数10箇所やると関節ロックが解除され深い呼吸ができるようになり、あゝ助かった、と言うようになり救急にも使用できます。これらは皆体が温かくなることから起こることです。腎機能も腰が温かい状態を保つと回復してくる例があります。最近の治療2症例を提示します。糖尿病改善と腎機能改善です。

1) 男性 48歳 BMI33.7
令和1年11月25日初診 糖尿病のどの渴き投薬
メトグルコ錠 500mg 2錠/日
ジャヌビア 100mg 1錠/日
スーグラ 50mg/日
エカード配合錠 50mg HD/日
HbA1c 12.0 クレアチニン 0.60 推算
GFR 112 中性脂肪 244
令和2年1月18日
HbA1c 7.7 クレアチニン 0.64 推算
GFR 104 中性脂肪 71
のどの渴き消失
その後楽になったせいか、余り来院なし。
ここ2カ月足らずで HbA1c 12.0 → 7.7 中性脂肪 244 → 71 となっている。

2) 男性 73歳 BMI37.8
令和1年7月29日初診 腰痛と膝痛 寝返りが難しい
クレアチニン 1.48 推算 GFR 37mL/min
HbA1c 5.4 中性脂肪 159
令和2年2月3日
腰痛と膝痛と寝返りも可となった。
クレアチニン 1.20 推算 GFR 47
HbA1c 5.5 中性脂肪 327 と推算
GFR 37 → 47 と改善したが、中性脂肪 159 → 327 と増えたのは説明付かないでいる。
1年後の令和2年7月22日
クレアチニン 1.41 推算 GFR 39
HbA1c 5.6 中性脂肪 179

※本稿は編集部依頼により2020年5月号に掲載いたしました論文を加筆修正の上再掲載させていただきました。